



機関誌 どうとくのひろば

実践事例のご紹介など、日々の授業のヒントが満載です。



各種 リーフレット

1テーマで教科情報をお届けします。

バックナンバーは、日文Webサイトでもご覧いただけます。

～お知らせ～

深井先生による「ここが知りたい 小学校道徳科 15の疑問」は、5回に分けてお届けしています。

vol.5は、2019年10月に発行予定です。

これまでの疑問



- 1 ねらいの設定が不十分だと指摘されてしまいました。
- 2 教材は子どもに順番に読ませていますが、ダメでしょうか。
- 3 「どんな気持ちでしょう。」という発問では、深まらないんですが……。



- 4 グループで話し合わせても、自分の考えの紹介で終わってしまいます。
- 5 ワークシートや吹き出しを用意しても、書けない子どもがいます。
- 6 役割演技がハチャメチャになってしまいます。



- 7 板書に困っています。
- 8 展開後段って、なぜ必要なのですか。
- 9 今までの自分を振り返れない子どもが、とても多いのですが…。

ここが知りたい
小学校道徳科15の疑問 vol.4

日文 教授用資料
令和元年（2019年）8月30日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261

本資料は平成30年(2018年)度版小学校道徳科内容解説資料として扱われます。
本書の無断転載・複製を禁じます。

CD 33475

日本文教出版 株式会社
<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大 阪 本 社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
東 京 本 社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
九 州 支 社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
東 海 支 社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18・F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690



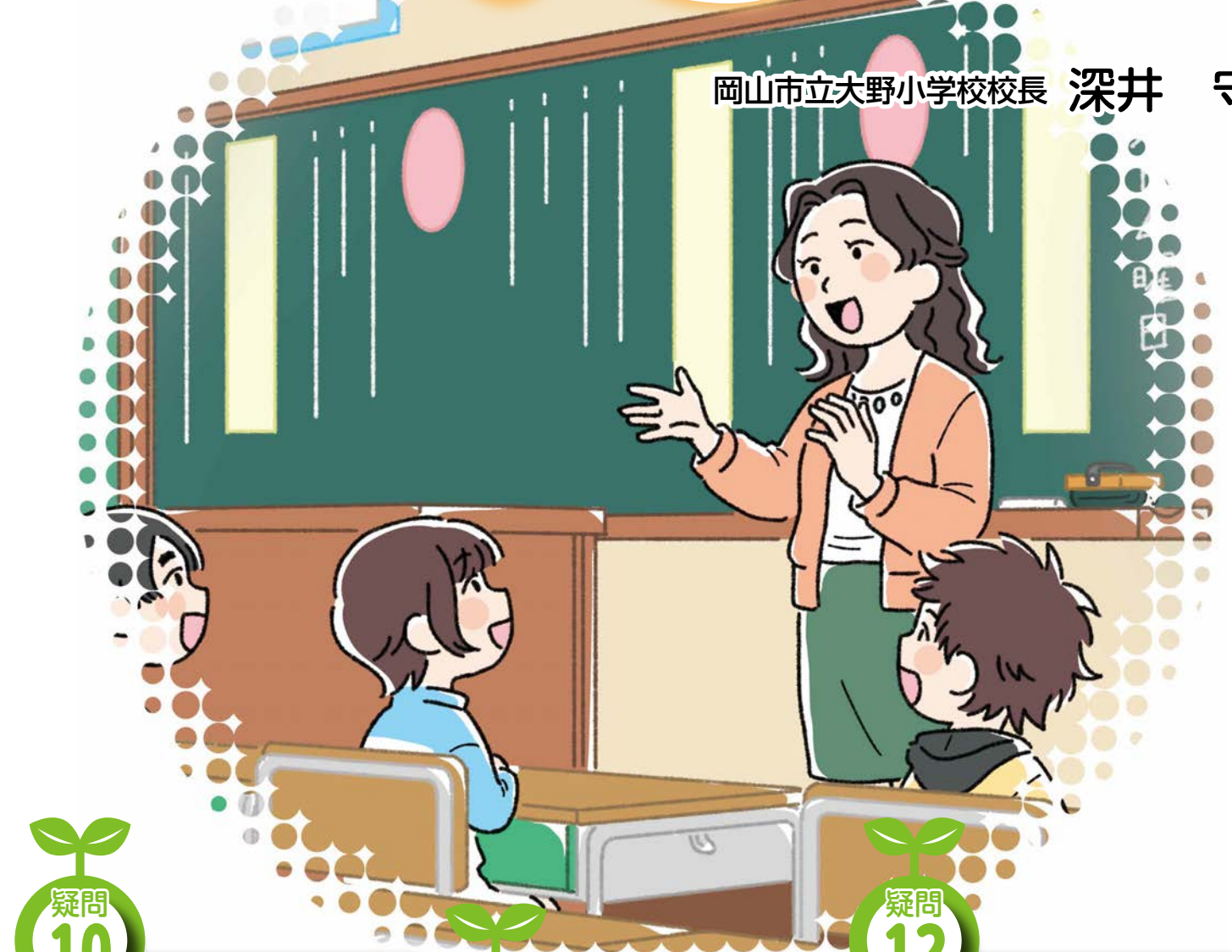
小学校
道徳科

15

の疑問

vol.4
疑問10～12

岡山市立大野小学校校長 深井 守



疑問
10

終末に教師の体験談を語るのが、苦手です。

疑問
11

「自我関与」って、どういうことですか。

疑問
12

「心情理解にとどまらず」って、どういうことでしょうか。

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の教科書情報

詳しくはWebへ!



終末に教師の体験談を語るのが、 苦手です。

終末に教師の体験談を語るのが、とても苦手です。子どもの前で自分の体験談を語るのは恥ずかしいです。もし、ぴったりの体験談がない場合は、自分で創作することにしています。でも、それって本当のことじゃないじゃないですか。子どもの前で語りにくいですよ。みなさんは、道徳科の終末での教師の体験談をどうされているのでしょうか。



道徳科の終末には、終末の役割があります。その役割が果たせるのであれば、何をどのようにしてもよいというのが、私の考えです。何も無理をして教師の体験談を語らなくてもよいのです。もし、教師の体験談を語るのであれば、どのようにすれば語りやすくなるのか、その他にどのような終末の学習活動があるのかを紹介していきます。

1 教師の体験談を語るなら

私がもし体験談を語るなら、次のような点に配慮したいです。

- ①武勇伝を語って押しつけないこと。
- ②人間的な弱さを中心に語ること。
- ③ねらいからはずれないように語ること。

人のことは言えませんが、年配の上司の方は「私が若い頃はこうだった。」などと武勇伝を語りがちですね。一応、「それはすごいですね。」とは思いますが、それ以上のものではありません。おまけに、「だから、あなたたちもしっかりがんばりなさい。」などと言われると、もう押しつけ以外のなにものでもありません。



ですから、「先生も悩んだのです。いろいろ失敗もしたのです。」と、人間的な弱さを中心に語るほうがよいと考えています。そのほうが、「先生もそうだったのか。」と親近感をもつことができます。そして、「でも、あきらめずに〇〇したのだよ。」などと語られると、「そうか、じゃあ自分ももう少しがんばってみようか。」という気持ちになれるかもしれません。

また、本時のねらいからはずれないように配慮することも大切です。実際の体験談は、様々な内容項目とつながっています。そのまま語ると、本時にねらう内容項目がばやけてしまうことがあります。本時のねらいに沿った話になるように、いらない部分はそぎ落として、筋を通す必要があります。

でも、あくまでその時間に扱う教材がメインあることを忘れてはいけません。もしも、教師の体験談の方がすばらしいものであれば、いっそのこと、それを自作教材にすればよいと思いますよ。

2 終末の役割

私は、道徳科の終末の役割を、その時間に何を学んだのかを印象付けることだと考えています。教材を読んで友達と話し合っ、こんなことに気付いた。それに照らして今までの自分を振り返ってみると、自分にもこんなよい面があるのを見つけたということだと思います。

最後に何を学んだかを印象付けることで、本時の学習がシュッとまとめられます。そのことによって、「道徳科っておもしろいな、楽しいな。」と道徳科を学ぶよさを実感することができます。「〇〇さんの考えには感心したな。」と友達のよさに気付くこともできるでしょう。「よし、がんばろう。」と子どもの実践意欲を高めることもできると考えています。

3 多様な終末

体験談のほかに、ことわざや格言はどうでしょう。短く印象付けることができます。いつまでも心に残るかもしれません。例えば、内容項目「D 生命の尊さ」の授業の終末に、「命は地球よりも重い。」を提示したとします。子どもが日々の暮らしの中で、事件や事故に遭遇したとき、命を意識したとき、「そうだ、命は地球より重いものなんだ。」と思い出したとしたら、すばらしいじゃないですか。

友達が今までの自分を振り返って書いたものを紹介するのはどうでしょう。「〇〇さんはこんなふうに書いていますよ。」それを聞いていた他の子どもが「自分と同じように考えている友達がいるんだ。」と思うと、実践しようとする意欲がわいてきますよね。

少し似ていますが、作文を紹介するのはどうでしょう。道徳科ではなく、日々のくらしや他教科・領域で書いた作文です。道徳科は、教育活動全体を通じて行っている道徳教育を補ったり、まとめたり、深めたりする時間ですから。ただし、本時のねらいにぴったりのものを選択しましょう。そして紹介する際は、本人の了解を得ておきましょう。「あなたの作文のここがこんなふうによいから、みんなに紹介してもいいですか。」と。

また教材がすばらしいなら、もう一度読み聞かせたらどうでしょう。教科書でもよいし、紙芝居でもよいでしょう。もし、DVDなどの視聴覚教材があれば、もう一度

みんなでそれを視聴してみてもはどうでしょう。全部視聴したところで3分程度がほとんどです。長くても6分もあれば十分でしょう。気に入った場面をみんなでじっくり味わって、今日の学習を印象付けるわけです。

さらに、家の人や地域の方からの手紙やビデオレターはどうでしょう。新たなことを話してもらうのではなく、本時に学んだこと気付いたことと同じようなことを語ってもらいます。そうすることによって、自分たちが考えてきたことについて、これでいいんだという自信をもつことができます。

あるいは、校長先生に登場してもらうのも、一つの方法です。もちろん子どもたちが考えて話し合ったことについて、認め励ます内容の話がよいと思います。そのためには、どんなことを話してほしいか、しっかりと打ち合わせをしておくことが大切です。

何も終末に体験談を語ることにこだわる必要はありません。終末の役割を十分に理解したうえで、その時間の学習が子どもに印象付けられる方法を考えてみましょう。そして、多様な方法を試して終末を楽しみましょう。





「自我関与」って、どういうことですか。

「自我関与」ってどういうことですか。展開後段で自分にもどすことだと思っているのですが、子どもは、展開前段で教材を読んで話し合っているときも、登場人物になって考えています。特に、低学年では動物などになりきって考えています。私の学級の子どもは、「うさぎさんになって考えましょう。」なんて言わなくても、うさぎさんになって考えています。それでよいのでしょうか。不安なので教えてください。



うさぎさんになりきって考えられるなんて、とても素敵なことですね。それはもう十分に「自我関与」できていると思いますよ。自信をもってほしいです。

「自我関与」というのは、登場人物に自分を投影して、判断や心情を考えることです。他人事ではなく、自分事として考えるとも言えます。登場人物になって考えていますが、実は、日々の暮らしの中で自分が考えていることが、登場人物に投影されているというわけです。ただし、道徳科では登場人物全般に投影するのではなく、道徳的価値にかかわる場面の登場人物に投影するという方が、正確かもしれません。

1 「自我関与」のよさ

例えば、教材の登場人物が困っている人に親切にしてみましょう。「ありがとうございます。」とお礼を言われてどんな気持ちになったでしょう。」と尋ねると、きっと「うれしい気持ち。」という答えが返ってくるはずです。

子どもは、自分を登場人物に投影して、自分が人に親切にしてお礼を言われたとき、とてもうれしかったことを思い出して、この登場人物もうれしい気持ちなのじゃないかなと想像しているのです。これが「自我関与」です。ですから、まったく経験がないことには、子どもは「自我関与」しにくいのです。

それでも、子どもはすばらしいもので、まったく自分は経験したことがなくても、似たようなことで自分はこんな気持ちになったから、きっとこの登場人物もこんな気持ちになっているにちがいないと想像することができるのです。

例えば、2年生の内容項目「B 親切、思いやり」の教材に「ぐみの木と小鳥」というのがあります。自分は人間だから小鳥ではありません。ぐみの木が言葉をしゃべるのを聞いたことなんてありません。りすと会話したこともありません。まして、嵐の中をぐみの実をくわえて飛ぶなんていう経験は皆無でしょう。でも、子どもって「自我関与」できるのです。

「りすさんが待っている。行かないとりすさんの具合が悪くなってしまふ。」なんて。きっと、自分の家族や友達が病気になったときのことを無意識に思い出して、小鳥さんに投影して想像しながら話しているのでしょう。



「小学どうとく 生きる力 2」P.132・133

2 「自我関与」はそれぞれ

また、教材にはっきりと書いてあることは、誰でも読めば同じような想像ができます。でも、教材に書かれていないこと、いわゆる行間を読むということは、子どもによってずいぶん違ってきます。「関与」する個々の「自我」が違うからです。

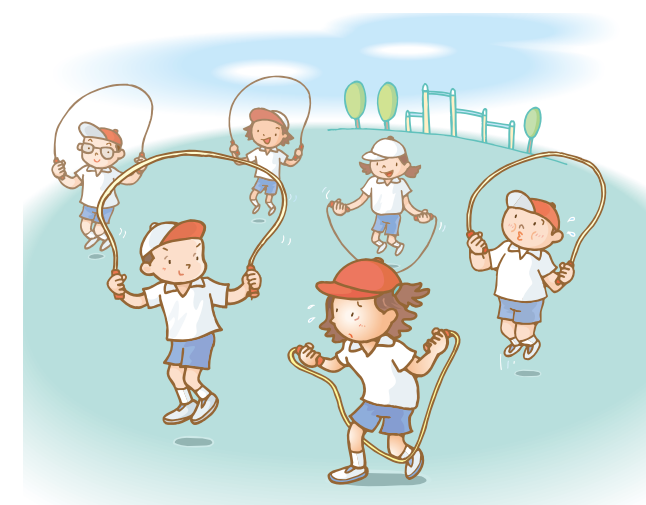
例えば、2年生の内容項目「A 希望と勇気、努力と強い意志」に「なわとび」という教材があります。なわとびの練習を繰り返してもうまく跳べない主人公。「汗をかき腕が痛

くなったとき、わたしはどんなことを思ったでしょう。」と発問すると、子どもたちからこんな反応がありました。

- ア 汗はだらだら流れるし、疲れたし、もうやめよう。
- イ この縄は跳びにくい縄だなあ。
- ウ よく跳べるようになるコツを教えてくださいからダメなんだ。
- エ お母さんにほめてもらいたいから、がんばろう。
- オ できるようになりたいから、もう少しがんばろう。

もちろん、教材文には詳しく書いてありません。だから、どの子どもの発言も、「自我関与」によるものだと考えられます。イの子どもは、物のせいにしてあきらめる傾向の「自我」があるようです。ウやエの子どもは、人に頼ろうとする「自我」が見えています。イ・ウ・エの子どもの共通点は、他律的な「自我」ではないでしょうか。アの子どもは我慢ができていない「自我」が現れています。オの子どもは、自律的な「自我」や向上心の現れが見られます。

これらを伝え合うことが、人間理解、他者理解だと思いますし、物事を多面的・多角的に考えることの一つの方法だと思います。



「小学どうとく 生きる力 2」P.76

3 「自我関与」しやすくするために

「自我関与」して発言するのは、けっこう恥ずかしいものです。冷やかされたり、笑われたりするとなおさらです。ですから、そうならないためには何でも言い合える人間関係が必要になります。どんな発言でもちゃんと受け止めてくれる友達が必要です。つまり、学級経営が充実していることが、「自我関与」しやすくなる前提条件といえます。

よく、「自分だったらどうするか考えましょう。」と指示する場合があります。でも、それを言ったから「自我関与」できる、言わなかったら「自我関与」できないという単純なものではありません。私は、言わなくても自然にできるのがよいと考えています。では、どうすればよいのか。それは、「自我関与」することのよさを実感することだと思います。「自我関与」して考え話し合っ、「よくわかった。」「楽しかった。」「おもしろかった。」という経験を積み重ねることです。そうすれば、教材を視聴しているうちから、自然と「自我関与」するようになるのではないかと考えています。

「自我関与」とは、登場人物に自分を投影して判断や心情を考えることです。「自我関与」することによって、自分の内面と向き合うとともに、自分以外の人の考え方や感じ方の多様性を知ることができます。

子どもたちがどんな考え方、感じ方でも率直に発言できる環境を整えましょう。

「心情理解にとどまらず」って、 ということでしょう。

道徳科では、よく「このとき、主人公はどんな気持ちだったでしょう。」と発問します。このような発問には、「うれしい気持ち。」「悲しい気持ち。」などと子どもはよく反応します。これは「心情理解」ですね。道徳科では「心情理解」が必要ないわけではないですね。では、「心情理解にとどまらず」ってどういうことでしょう。「心情理解」のその先にあるものは、いったい何なのでしょう。



「心情理解」の先にあるものは、道徳的価値についての考え方や感じ方です。価値観と言ってもよいかも知れません。それこそ、生き方です。ということは、道徳科の展開で心情理解のみに終わってはいけないということです。もちろん心情理解は必要です。心情理解をしたうえで、道徳的価値についての考え方や感じ方、生き方のレベルまで深めていきたいと思います。しかし、この「深める」というのが、私はとても難しいことだと感じています。「深まり」がない授業のことを、上滑りとか、浅いとか言います。どうすれば、「深める」ことができるのでしょうか。どうすれば心情理解の先に行くことができるのでしょうか。一緒に考えていきましょう。

1 「心情理解」のその先へ

5年生の教材「これって不公平？」（C 公正、公平、社会正義）を考えてみましょう。そこには次の4つの場面が提示されています。

- ① ミカさんは一緒にサッカーをしたいけど、男の子たちは女の子だからと入れてくれない。
- ② 車椅子のけんたさんは、キャッチボールが上手になりたいと思っているのに、友達はゆるいボールしか投げてくれない。
- ③ 給食をみんな同じ分量で配ることにした。アヤカは好きではないから少しにしてほしいけど、ユウヤはおなか

がすいていたのでもっと食べたい。

- ④ 3人で紙芝居の絵を描くことになったが、ジュンヤとナナは塾があるからといって絵を習っているアキラに任せて帰って行った。

それぞれの心情理解は、そう難しくはありません。



ミカさん

女の子だってやりたいのよ。入れてよ。差別しないですよ。

男の子たち

慣れてないと危ないし、思い切り楽しめないや。



友達

取り損ねたら悲しい思いをするから、ゆるく投げよう。

けんたさん

もっと強く投げてよ。上手になりたいんだから。



アヤカ

こんなに食べられないな。減らしてほしいな。

ユウヤ

もっと大盛りにしてよ。おなかすいてるんだから。



ジュンヤとナナ

絵を習ってるんだから、1人で描いておいてね。

アキラ

1人に押しつけて、ずるいぞ。手伝ってよ。

『小学道徳 生きる力 5』
P.150・151

このように心情理解をしました。さて、ここからです。これらを「不公平かどうか」という視点で見直してみましょう。

2 「心情理解」のその先に

①は、「不公平だ。」という意見が多く出ました。根拠を尋ねてみると、「女の子だからといって差別してはいけない。」「本人がやりたいのだから、一緒にやればよい。」「同じように、別の遊びで『男子は入れない。』と言われたら、嫌だと思うから。」などです。

④についても、「不公平だ。」という意見がほとんどでした。根拠を尋ねてみると、「3人で引き受けたことを、1人に任せるのは不公平だ。」「絵を習っているからというのは、任せてよい理由にならない。」などの意見が出ました。

③については、「公平だ。」という意見がほとんどでした。「同じ量を配っているのだから平等だ。」という意見です。ただし、人それぞれ食べられる量に違いがあるのだから、その人の食べられる量に応じて、減らしたり増やしたりしてもよいのではないかという意見も出ました。なるほどそうかも知れません。

意見が分かれたのが、②です。車椅子の子に「強いボー

ルを投げるのが公平だ。」という意見と、「ゆるいボールを投げるのが公平だ。」という意見です。根拠は、「本人がキャッチボールがうまくなりたいと思っているのだから、強いボールを投げるのが公平だ。」という意見と、「そんなことははっきり言葉で伝えてくれないとわからない。車椅子なのだから、手加減するのが公平でしょう。」という意見。さあ、「公平」とはいったい、どのようなことでしょうか。

ここまでくると、もう心情理解の域は超えていますよね。「公平」という道徳的価値についての考え方や感じ方について議論しています。とはいっても、どうするのが公平だという結論を出そうとしているわけではありません。公平について人それぞれに少しずつ違った考え方や感じ方があることがわかんと思います。そして、それぞれの人がそうしたいと思っていることを実現できるのが、公平な世の中なのかなという共通理解ができました。

このように、「深める」ひとつの手がかりは、登場人物の心情理解をしたうえで、そのような心情になった根拠を尋ねることだと思います。「なぜ、そんなふうになったのかな。」「どうしてそんな気持ちになったのかな。」「もう少し詳しく話してください。」などと尋ねるのが有効だと思います。

大切なのは、わかり合うということです。友達の意見を論破するとか、打ち負かすというとは違います。道徳的価値についての、友達の考え方や感じ方をじっくり聞いて、自分の考え方や感じ方と比べながら、その違いを認め合うということです。

心情理解をしたうえで、道徳的価値についての考え方や感じ方、生き方のレベルまで「深める」ことが大切です。その心情のもとになった思いを掘り下げることが、自分の内面を見つめ、また相手を理解することにつながるでしょう。